



七色のかがやき

長崎市立虹が丘小学校 学校便り No. 14
令和6年10月28日(月)
編集・発行責任者 校長 池田敏典
E-mail e52nagasaki-city.ed.jp
G-mail nijigaoka@gmail.com



学校敷地内の木々の葉が色づき始め、いよいよ本格的な秋が訪れました。日ごと早くなる日没や風の冷たさに、季節の移り変わりを感じます。季節感が乏しくなったと言われる昨今ですが、こんなところにも季節の声が聞かれます。

さて、今週末から11月。早いもので、2学期も二ヵ月足らずとなりました。9月の修学旅行をはじめ、小体会、社会科見学、町たんけん等、各学年、様々な取組を通しまして、本年度の充実期を過ごしてきましたが、本物の力を身に付けるために、日頃の学習にも真剣に取り組んでいます。また、1、2年生は小音会に向けて練習を頑張っています。2組の子どもたちは、交歓会に向けて準備を進めています。そして、全学年、レインボーフェスティバルでの発表に向けて頑張っています。

『主体的に学びに向かう子ども』を目指して

「先に生まれる」と書いて「先生」と言いますが、中国では、年長者に呼びかける際に「先生」という尊称をつけると聞いたことがあります。先生という呼び方には、若い人が年長者の経験を大切に、尊敬するという思想が含まれているようです。また、プロスポーツの新人選手は、先輩のプレーを見ることで体に覚え込ませていくといいます。優れた技術の神髄を教わるのではなく、盗むわけです。

作家の童門冬二氏は、次のように述べています。

教えてもらうのは受け身の姿勢であり、与えてくれるのを待っている。それに対して盗むという行為は、自らの全知全能をかけて学び取るのである。真剣な眼差しで獲得したものだけが、血となり肉となるのだ。

少々大げさな内容ではありますが、子どもたちの学びにおいても同様のことが言えるのかもしれない。私たち教師の授業の在り方も見直さなければならぬでしょう。知識も技術も、そして方法も、必要な時は教えなければなりません。しかし、まずは自分で考え、試し、繰り返し修練することが、本物の力を身に付けることにつながるのではないかと考えます。

いま、5年生、6年生の授業においては、学習内容によって『自由進度学習』というスタイルをとっています。簡単に言いますと、学習課題の解決に向けて、子どもたちが自分のペースで学びを進めていくというものです。一斉授業とは違い、速く学びを進める子どもはより広く、学びを広げたり、深めたりすることが可能となり、ゆっくり目の子どもはじっくりと理解を確かなものとする事ができます。また、場合によっては、子ども同士で情報交換し合ったり、教え合ったりすることもできますし、教師がフォローに入ることもできます。大切なことは、与えられるのではなく、主体的に獲得するということで、自分で調べ、考え、試し、納得し、理解したことは、本物の知識と成り得るということです。課題もあり、まだまだ道半ばではありますが、最終的に、子どもたちを主体的に学びに向かう「自立した学習者」として育てることを目指し、全職員で研修に努めていきます。

『自分をほめる心境』

私事で恐縮ですが、教職一年目の夏、勤務時間が終わり、子どもたちとバレーの練習で汗を流す日々でした。帰宅し、大家さんのお宅でお風呂をいただき、離れの部屋にもどる際、いつも御主人から「寄っていかんね」と声をかけていただいていた。私が入浴に合わせるようにビールを飲み始めておられ、私にも注いでくださるのです。そして、「今日も、よう頑張ったね」と言ってくたさるのです。その言葉が嬉しくて、なんだか自分も「よう頑張った」と、自分をほめる心境となり、明日へのエネルギーをいただいていたように思い出します。

「今日もよう頑張った！」・・・そうした心境になる日を積み重ねていきたいものです。